

小学校第6学年 道徳の時間 学習指導案

日時 平成25年10月11日(金) 5校時
場所 御船町立七滝中央小学校 多目的室
授業者 教諭 村田裕紀

1 主題名 権利と義務

資料名 自由に使うからには (道徳6「明日をめざして」 東京書籍)

2 主題について

(1) ねらいについて

本主題は、内容項目4-(1)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。」の価値、「権利と義務の関連を考えるとともに、正しく権利を主張し義務を果たそうとする態度を養う。」ことを目標としている。

権利と義務は表裏一体の関係にあり、権利を正しく主張し義務を果たす精神をもつことは、社会生活を営んでいくうえでとても重要なことである。このことは、情報社会においても同様で、現在インターネットや携帯電話などの急速な普及は、子どもたちの生活に多大な影響を及ぼしており、メールおよびインターネットへの接続は、便利さの反面、依存症やメールによる陰湿ないじめ、ネット犯罪など深刻な問題を引き起こしている。

この学習を通して、子どもたちが、将来、所持・使用する携帯電話やインターネットにおける権利と義務についても考えを深めることは、情報モラル育成の視点からも非常に有意義なことであると考え

(2) 児童の実態について

情報モラルに関するアンケートの結果は以下の通りである。(9月上旬実施)

携帯電話・スマートフォンを使ったことがある。	はい10人 いいえ0人
自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。	はい7人(男子2/女子5) いいえ3人
携帯電話・スマートフォンでメールをしたことがある。	はい9人(男子3/女子6) いいえ1人
携帯電話・スマートフォンで通話やメールをどれくらいしていますか。	毎日 1人(男子0/女子1) 週2・3回 3人(男子0/女子3) 週1回 3人(男子1/女子2) 月1回以下 3人(男子3/女子0)
自分の携帯電話・スマートフォンを使うルールが家族で決められている。どういう約束ですか。	はい 4人 夜遅くまでしない。 あまりメールをしない。 いいえ3人(※否所持3名除く)

児童全員が携帯電話もしくはスマートフォンを操作している。また、自分専用の携帯電話を所持している児童が7人いて、9人の児童が日常的にメールのやり取りをしていることが分かった。

特に女子児童の所持率や使用頻度が高い。「夢中になって夜遅くまでメールのやりとりをしたことがある。」と回答した女子児童がいた。男子児童はメールよりもゲームを好む傾向がある。

家庭における携帯電話やスマートフォンを使うルールについては、頻度や時間に関することは決められているが、その内容面に関する取り決めはされていない実態があった。

(3) 資料について

本資料は、使い方が悪く使用禁止となった小学校の体育倉庫に対し、みんなで使えるようにするために使い方の約束を決める活動を通して、主人公が権利と義務について気付いていくという内容である。

自分たちが体育倉庫を使うためには、権利とともに義務があることに気付いていく主人公の心に共感させたい。また、事前の学習を想起させ、携帯電話等においても、自由に使うからには守るべきルールや果たすべき義務があることに気付かせていくような指導にしたい。

(4) 指導にあたって

【事前】

○学級活動内容（2）において、携帯電話やスマートフォン、インターネットにおける良さや課題、ルール作りの大切さについて学習しておき、道徳の時間との関連が図れるようにしておく。

【本時】

- 展開前段で児童の感想交流をすることで、児童の主体的な課題解決学習へつなげるようにする。
- テーマ発問による道徳の時間の展開を図ることで、児童の自由な意見が活発に出るようにし、より自分のこととしての学びができるようにする。
- 学習形態の工夫（セルフトーク・ペアトーク・オールトーク）により、児童の意欲的な表現活動ができるようにする。
- 書く活動の設定により、ねらう価値に向けた意図的な方向付けができるようにする。
- 展開後段では絵カードを示すことで、事前に学習した携帯電話やインターネットについての義務について考えやすいようにする。
- 板書を工夫することで、権利と義務の関係が視覚的に捉えることができるようにする。

【事後】

○教科におけるタブレットパソコン使用時などに、日常的に、情報モラルや道徳的価値4—（1）と関連を図った指導をしていく。

<p>【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成</p>	<p>【視点2】 学習評価と指導の改善</p>	<p>【視点3】 情報活用能力の育成</p>
<p>【視点1】 テーマ発問の設定や、セルフ・ペア・オールトークという学習形態の工夫・表現の場の工夫をすることを通して、児童に思考力・判断力・表現力等の育成ができるようにする。</p>	<p>【視点2】 本学習においては、学級活動との関連や、資料における道徳的判断と携帯電話に目を向けた道徳的実践意欲の両面の学習評価を看取することで、児童への指導の改善が図れるようにする。</p>	<p>【視点3】 正しく権利を主張し義務を果たそうとする態度を養う規範意識を育むとともに、「情報社会でのルール・マナーを遵守できる」という情報モラルの目標と関連付けた説話を行うことで、情報モラルの育成を図る。</p>

3 本時の学習

(1) ねらい

権利と義務の関連を考えるとともに、正しく権利を主張し義務を果たそうとする態度を養う。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 片付けがうまくできなかった経験について考える。	○片付けがうまくできなかった経験はありますか。	○自分たちに関わる実物を示し、資料を自分たちのものとして視聴できるようにする。 ○視聴した感想を発表し合うことで、課題作りができ、主体的な学習につながるようにする。	サッカーボール フラッシュカード

<p>展開前段 20分</p>	<p>2 資料「自由に使うからには」を視聴して話し合う。 (1) 同時に考えなければならぬことについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【言語活動】 学習形態を工夫することで、自分の考えをもち、友だちの考えを聞きながら比べ、義務に対する認識を深めることができるようにする。</p> </div> <p>(2) 題名「自由に使うからには」に続くと思う言葉を考える。</p>	<p>○一ヶ月も使用禁止になった体育倉庫について。みんなはどんなことを思っているだろう。</p> <p>[テーマ発問] 同時に考えなければいけないことって、どんなことだろう。それはなぜだろう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>児童を見る規準：道徳的判断（学習シートの記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使ったものはもとにあった場所にしまわなければいけない。みんなのものだから。 ・きれいに整理しなくてはいけない。次に使う人が使いやすいから。 ・大切に使う。壊したら友だちが使えなくなるから。 </div> <p>○「自由に使うからには」には、どんな言葉が続くと思いますか。</p>	<p>【視点1】テーマ発問により、友だちの考えと自分の考えを比べ、より深め表現できる活動を行う。</p> <p>○セルフトーク、ペアトーク、オールトークの学習形態をとることで、友だちの考えと交流することで、義務に対する認識を深めることができるようにする。</p> <p>○「同時に考えなければいけないこと」をキーワードに、権利と義務の一体性が視覚化できる板書にする。</p>	<p>紙芝居 ミニホワイトボード 実物投影機</p>
<p>展開後段 10分</p>	<p>3 義務について考えを深める。</p>	<p>○携帯電話を使う上での義務について考えましょう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>児童を見る規準：道徳的実践意欲（発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を使うときは、時間を守って使わなくてはならない。 ・メールで悪口を書いてはいけない。 ・子どもだけで携帯で買い物をしない。 ・家族とのルールを守ることは義務だ。 </div>	<p>【視点2】テーマ発問により、友だちの考えと自分の考えを比べ、より深め表現できる活動を行う。</p>	<p>スライド ハートカード</p>
<p>終末 10分</p>	<p>4 説話を聞く。 携帯電話やインターネットの良さや課題に関する説話を聞く。</p>	<p>○使う権利のためにも、守るべき義務をしっかり守っていきましょう。</p>	<p>【視点3】正しく権利を主張し、義務を果たそうとする規範意識を育むとともに、「情報社会でのルール・マナーを遵守できる」という情報モラルの目標と関連づけた説話を行う。</p>	<p>出典 警視庁HP 「画面の中の別れ道」</p>